

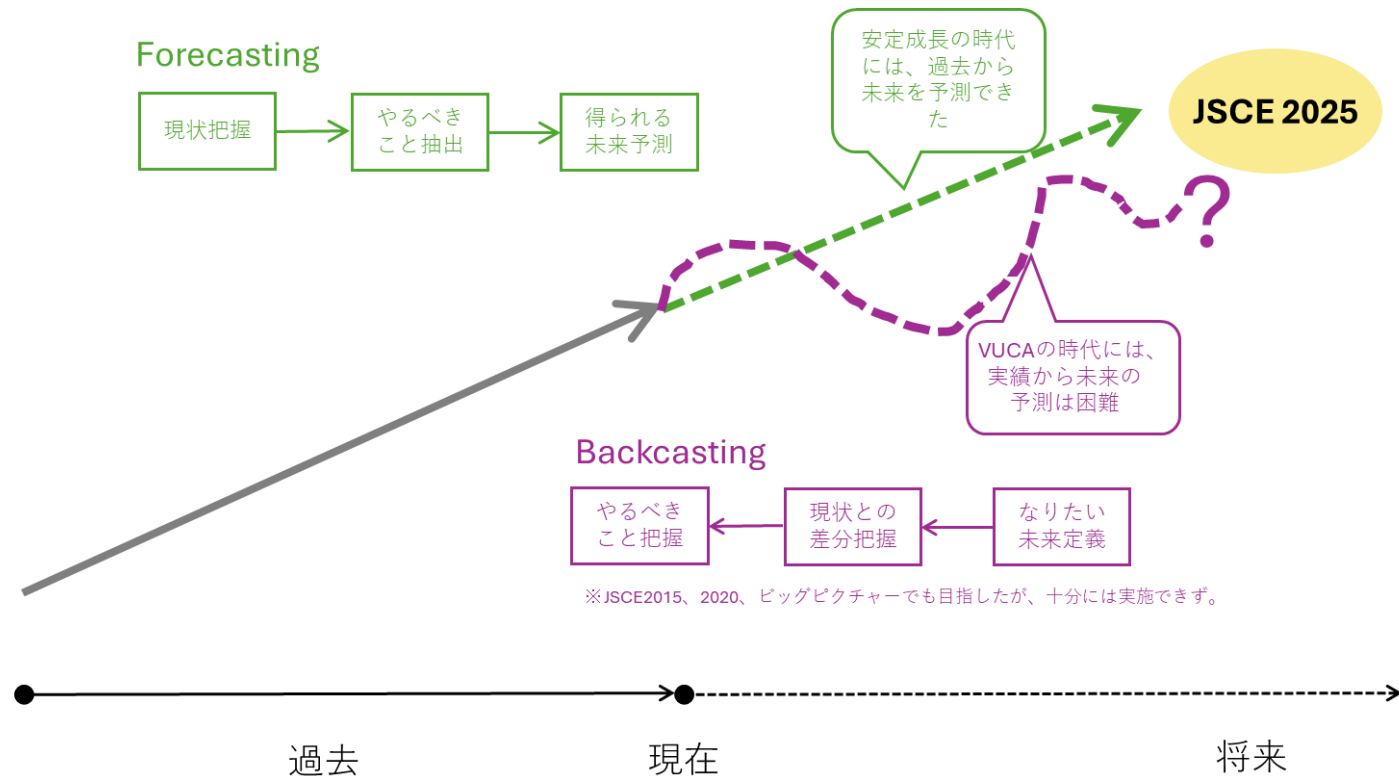
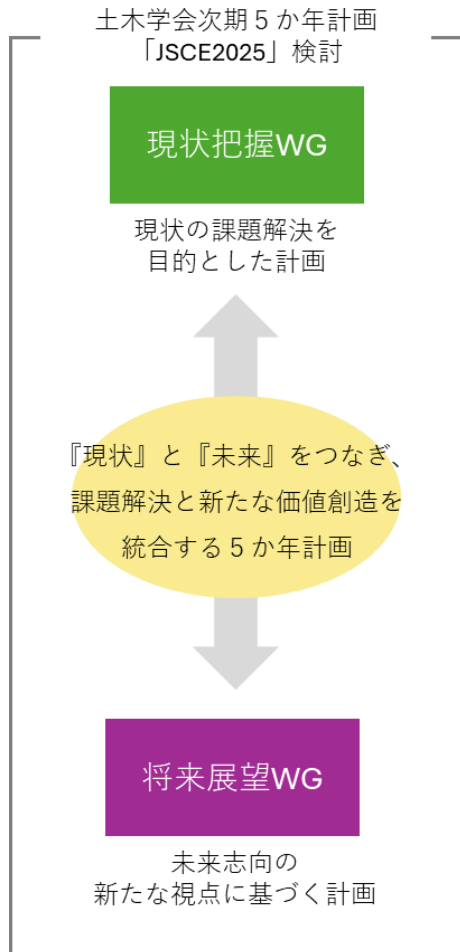
将来展望WG 活動内容・成果説明

将来展望WG主査 岡崎慎一郎

将来展望WGが設置された理由

バックキャスト型手法の主なメリット

- ・大きく変革する社会を想定した施策を提示し、**会員・組織の行動変容を促す**ことができる
- ・現時点で**顕在化していない**、あるいは**認識されていない課題を抽出**できる
- ・**現在は学会に関与していない主体を想定**し、働きかける方策を検討できる
- ・施策より未来を先に考えることで、**対立しやすい課題を融合したあり方を提示**できる



将来展望WGにおける学会の課題抽出の検討手順

01

土木学会の 価値・役割

土木学会の価値・役割とは？（定款をもとに議論）

世論をリードする
未来像の提示

インフラの
あるべき姿の提示

土木工学の
存在意義の提示

土木工学
学問のハブ

02

土木学会の 将来像

土木学会の「将来像：あるべき姿」とは？

土木学会の「価値・役割」をもとに、土木学会の将来像、
求められる「あるべき姿」を検討

03

将来の会員・ 職員の姿 （ペルソナ分析）

土木学会の将来像が実現したとき、会員はどうなるか？

「土木学会に関わっている人」または「将来関わってもらいたい人」はどんな人か？
ペルソナを設定し、悩みや課題のある「現状」から、土木学会と関わることで悩みや
課題が解決された「5年後の状況（あるべき姿）」を検討

04

施策

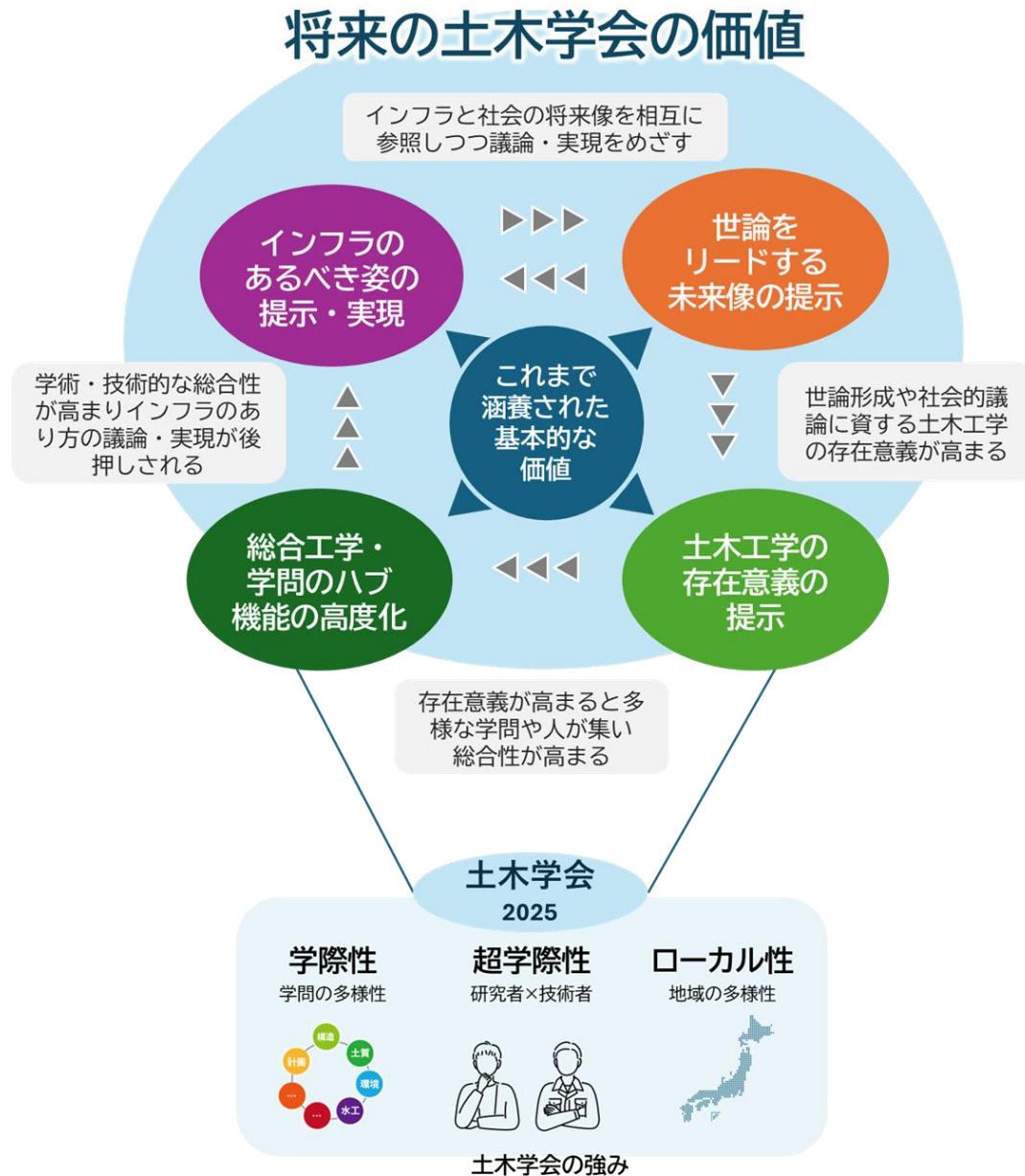
「あるべき姿」に近づくための施策とは？

ペルソナから導き出される土木学会の「あるべき姿」に近づくためには、具体的に
どのような施策が必要なのかを検討

ペルソナ分析

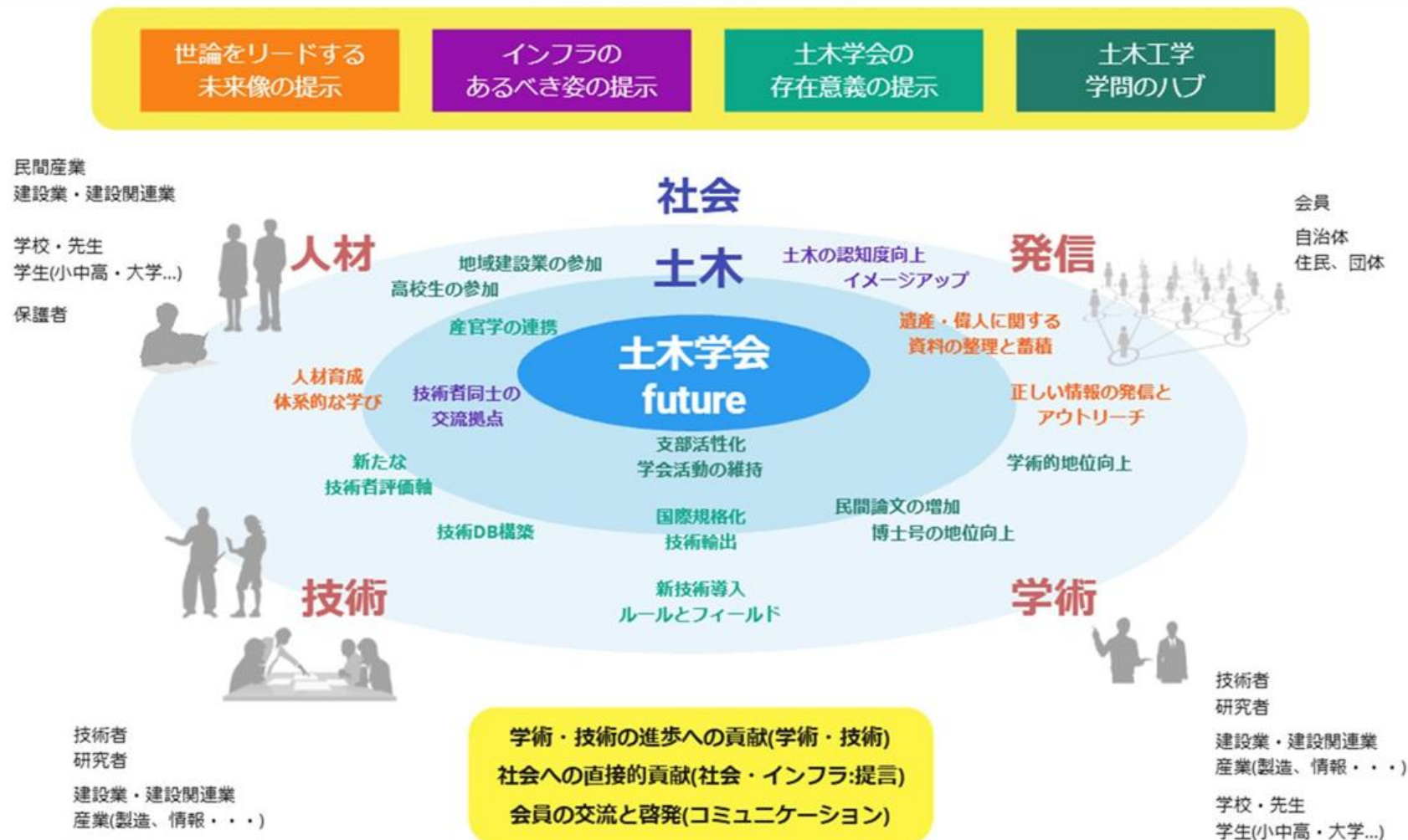
サービスのターゲットとなる顧客像（ペルソナ）を、架空の人物として詳細に設定、
その顧客の行動や思考を分析し、商品・サービスの開発や戦略・施策を検討

将来に拡張すべき土木学会の価値

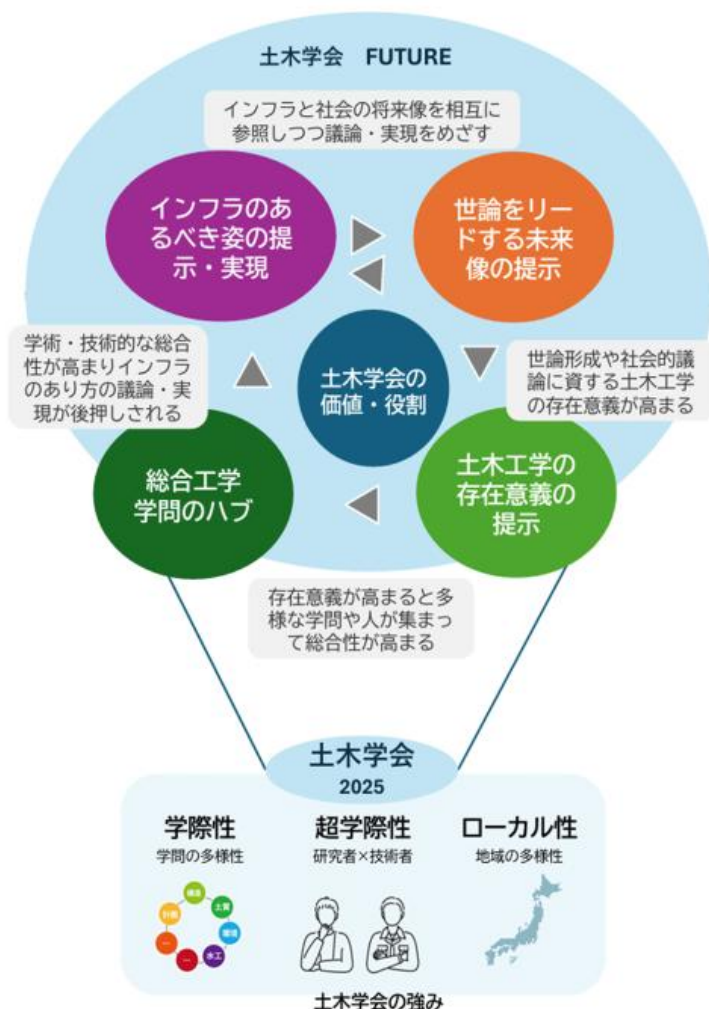


土木学会に求められる役割とそれを実現する土木学会の姿

土木学会の価値



土木学会の未来像 WG案



■検討フロー [親和図法 ※miro(ツール)活用]

○土木学会の価値・役割とは？(定款をもとに考える)

世論をリードする
未来像の提示

インフラの
あるべき姿の提示

土木学会の
存在意義の提示

土木工学
学問のハブ

○「あるべき姿」に向かう土木学会について

- ・土木学会の未来に必要な「コト」、「ヒト」、「モノ」...
- ・現状:どんな人たちがいる?どんな課題がある?
- ・将来:どんな人に関わってもらいたい?どんなことがあれば良い?

○視点

育てる

守る

支える

つなげる

○対象となる「あなた」について

- ・どんな人を「育てる」のか / 「育てる」「育つ」
- ・どんな人を「守る」のか / 「守る」「守られる」
- ・どんな人を「支える」のか / 「支える」「支えられる」
- ・どんな人を「つなげる」のか / 「つなげる」「つながる」

WG:キャッチフレーズ

あなたをつなぐ あなたがつなぐ 新たなコモンズ

コモンズの説明のため、アブストラクトを追記
(3/5)。

ペルソナ分析

あなたをつなぐ
あなたがつなぐ
新たなコモンズ

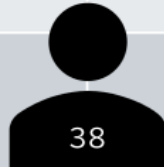
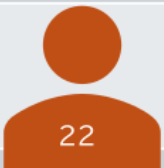
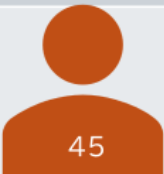
育てる 守る 受える つながる
あなたをつなぐ コモンズ あなたをつなぐ コモンズ あなたをつなぐ コモンズ あなたをつなぐ コモンズ

会員数
約39,000人
[2024/9現在]



ペルソナ分析

土木学会の未来を考えるために重要な6人＝ペルソナ

		業界内	業界外	学生
会員区分	コア会員	 43 α : 鈴木 征矢		
	会員	 35 A: Emilio Gutierrez		
	非会員		 46 B: 吉田 学	
			 38 β : 原田 拓也	 22 γ : 高橋 陽菜
学会組織		 45 I: 大木 洋子		

注: 数字は設定した年齢。 α 、 β 、 γ は当初設定した複数のペルソナを統合した。

ペルソナα：鈴木征矢（コア会員・日本人）

【凡例】
現在の課題や悩み
良いこと
気持ち、できるようになったこと

キャッチフレーズ(案)：つながる力で広がる未来！土木・家庭・地域に貢献する新しい働き方！

【設定】
コア会員
日本人

名 前：

すずき せいや
鈴木 征矢



サンプル

年 齢： 43歳

性 別： 男性

出身地： 宮城県仙台市

現住所： 東京都

家族構成

妻（システムエンジニア）
子供2人（10歳、8歳）

趣味／
感心事

- ・ラーメン食べ歩き、キャンプ
- ・現場の困りごと
- ・子供の面倒見、妻のケア
- ・地元の活性化

職 業

ゼネコン
課長／現場監督の実績あり

土木との
関わり

土木工学科出身

土木学会
との関わり

会員
コンクリート委員会、企画委員
会など多くの委員会を歴任

■現在の状況

鈴木さんは、ゼネコンで課長を務める土木技術者で、現場監督としての豊富な経験を持つ。

土木工学科出身で、コンクリートに関する専門知識を活かし、土木学会ではコンクリート委員会や企画委員会をはじめ、多くの委員会に関わってきた。

しかし、会社の指示で学会に入会したものの、委員会活動が増えるばかりで、会社から正式に評価されるわけでもなく、有休を使って参加しているのが実情だ。

学会活動には興味があるが、日々の業務が忙しく、自分の時間を削ってまで続けることに疑問を感じている。

また、家庭の課題も大きい。

妻はシステムエンジニアで、仕事に本格復帰したいと考えているが、子供の中学受験も控えており、家事や育児のサポートが必要だ。仕事と家庭の両立に加え、地元仙台の活性化にも貢献したいと考えているが、具体的にどう関わればよいのかわからず模索中。

さらに、スキルアップのための文献収集や事例調査の方法にも悩んでおり、仕事のやりがいを見出しながら成長する道を探している。

■5年後...（悩み、課題が解決した時の状況）

これまでは幾つもの委員会委員を掛け持ちしている状況であったが、業務として会社から認められ、学会活動に参加しやすくなったことも影響し、若手・ベテランともに社内での土木学会員が増えたことで、いくつかの委員会委員業務を分担することができるようになった。

また、委員会ではこれまで大御所の先生の顔を伺いつつ用務を行っていたが、委員会内では呼称を「さん」付けにするなどにより、これまでのようなヒエラルキーがなくなり、円滑にストレスなく用務をこなせるようになった。

大学院修士課程修了後ゼネコンに就職し、現場監督等を経験。家庭では子供が2人で慌ただしい日々を過ごしているが、公私ともに充実するにたがって、これまで培ってきたスキルで地元仙台に貢献したいと考えるようになった。

そこで土木学会東北支部のfacebookを見てみると、都会から地元仙台の方とのつながりができ、支部主催のイベント（土木の日関連イベント、子供たちの現場見学会など）にも積極的に参加し、地元の土木人材育成に貢献できた。また、支部活動を通じて、本部の学会活動（専門技術委員会と、その他に特定のPJのWGメンバーに応募）に積極的に参加し、自身のスキルアップと人脈形成につながった。特に、水工学や地盤工学等の他分野の研究者との交流が生まれ、仕事へのモチベーションもアップできた。これらが可能となったのは、業務として会社から認められ、学会活動に参加しやすくなったことも影響している。その報告も兼ねて、上司とのコミュニケーションの機会が増えた。

技術的な問題を、学会のメタバース上の図書館等を通じて容易に調査可能となり、業務に活用している。このメタバース空間では、同業者での意見交換も活発であり、その中でパパ友ができ、子育てに関する悩みを共有する中、アドバイスをもらえたことで家事の効率化につながり、家族にも喜ばれた。

ペルソナA: Emilio Gutierrez (コア会員・外国出身)

【凡例】
現在の課題や悩み
良いこと
気持ち、できるようになったこと

キャッチフレーズ(案): 専門性と多様性を武器に。日本と世界をつなぐ土木技術者の新たな挑戦!

【設定】

コア会員
外国人



サンプル

名 前:

XXX XXX
Emilio Gutierrez

年 齢: 35歳

性 別: 男性

出身地: メキシコ(変更?)

現住所: 埼玉県/バングラ

妻 (日本人)、子ども3歳

家族構成

・筋トレ
・語学の習得

趣味/
感心事

コンサルタント
努力して日本語を身につけた。
技術士の試験を3回目に取得/N1取得した/
国際部門での契約社員

職 業

日本の高専・大学院で専攻

土木との
関わり

会員
GCE委員会委員
国際CのGriにも参加

土木学会
との関わり

■現在の状況

Gutierrezさんは、メキシコ出身の建設コンサルタントで、日本の高専と大学院で土木を学んだ。努力して日本語を身につけ、N1を取得し、技術士試験にも3回目で合格。現在、国際部門の契約社員として勤務しているが、外国出身者枠のため、昇進など今後のキャリアの展開が見えず、不安を感じている。

大学では外国出身の教員が増えている一方で、企業ではまだ少なく、企業内での外国出身者のキャリアパスが確立されていないと実感している。

土木学会では会員としてGCE委員会に参加し、国際部門のグループにも関わっているが、外国出身者の意見を反映する役割として呼ばれることが多いわりに、実際に発言の機会が少なく、負担ばかりが増している。海外勤務が多く、時差の影響で会議に参加できないことも多い。参加できても、学会のネットワーク環境や機材の影響で聞き取りづらく、発言しにくい状況にある。

また、5年前から関わる外国出身者の委員会では「集客数」が評価指標とされ、活動の成果が正当に評価されにくい。

さらに、企業が外国出身者の専門性よりも日本語能力を重視していることを知り、ショックを受けた。一方、自分ほど日本語が使える外国出身者は少なく、彼らが職場で孤立している状況に心を痛めている。

母国と日本の架け橋となり、外国出身者が働きやすい環境づくりに貢献したいと考えているが、企業や学会内でどのように影響を与えられるか模索中。海外勤務が多いものの、家族と一緒に過ごす時間を大切にしたいという思いも強い。

■5年後... (悩み、課題が解決した時の状況)

Gutierrezさんが日本のコンサルタントに就職して15年が経った。7年前に苦労して取得した技術士の資格を活かし、中南米や中近東での日本の海外支援のインフラ建設プロジェクトに、コンサルタントとして参加している。現在はバングラデシュに滞在している。

土木学会では、企画委員会、D&I委員会に関わっている。どの委員会にもGutierrezさん以外の外国出身のメンバーが必ずいる。委員会では日本語、英語など、それぞれが得意な言語でのびのびと発言している。委員会では活動の目的と一致する「外国出身の会員が活動しやすくなることへの貢献」が評価の基準として定められており、やりがいを感じて取り組んでいる。

委員会などでも、出身や日本語の能力を理由に疎外感を持たれることはなくなり、それぞれの背景や人格が尊重されるようになったとGutierrezさんは感じている。

海外にいるために対面での会議に出席できないことも多いが、委員会のメンバーとは、会議以外でも気軽にやり取りをする機会がしばしばあるので、疎外感を味わうことはない。

土木学会の委員長に占める外国出身の人は1割になったり、今年度は初めての外国出身の理事が就任したのを知り、自分たちの声も学会の運営に反映されるかも、と嬉しく感じる。所属先の会社でも土木学会の運営をお手本にしてくれるといいな、と思う。

外国出身技術者の社内での待遇の問題はこの5年の間に土木学会でも話題になり、日本出身の社員と変わらない待遇で契約されるようになった。そのおかげもあって、Gutierrezさんも正社員の一人として働けるようになった。将来は経営に関わりたと思うようになった。

また、大学や社会でも、海外にルーツを持つ人が珍しくなくなり、社会を構成し、社会を牽引するメンバーの一人として扱われる時代が来たと感じている。

ペルソナB: 吉田学 (コア会員・大学教員)

【凡例】
現在の課題や悩み
良いこと
気持ち、できるようになったこと

キャッチフレーズ(案): 研究の最前線を逃さない! 学会・行政・企業と連携し、実践と教育を強化!

【設定】

コア会員
大学教員



サンプル

名前:

よしだ まなぶ
吉田 学

年齢: 46歳

性別: 男性

出身地: 兵庫県

現住所: 四国

■現在の状況

吉田さんは四国の大学で地盤工学を教えている。最近教授に昇任した。昇任後は学内や学会の事務的な仕事が多く、研究に使う時間が足りないと感じている。

災害調査や地元の業界との共同研究などで地域へ貢献している実感はあるが、なかなか業績につながらずもどかしい。講義で紹介する事例が、自分の得意な分野の事例に偏ってきており、幅広い情報収集をしたいが、あまり時間がない。

首都圏への距離を感じており、境界領域の知識を勉強したいが、学術的な会合にも、自分が登壇するもの以外はなかなか時間を確保して出席することが難しい。

家族構成

妻(元大学同期、以前勤めていた職場から設計業務を請け負っている)
娘2人(中2と小5)

趣味／ 感心事

昔はよく恩師の影響でゴルフをしていたが、最近は年に数回。

職業

大学教員／
関西の国立大学の土木系学科を卒業後、修士課程修了後に助手として採用された。勤務の傍ら博士の学位を取得。四国の国立大学に着任し、最近教授に昇任した。

土木との 関わり

土木一筋

土木学会 との関わり

会員
学生時代からずっと会員

■5年後... (悩み、課題が解決した時の状況)

吉田さんは50を過ぎ、学内や学会での役割も増え忙しい日々を送っている。

最近、土木学会ではオンラインのプラットフォームが充実してきた。まず、教育や業務に自由に使える資料を会員間で共有するシステム。学会で聞いて気になっていた事例をこのシステムで公開されている写真や図面を使って紹介することができ、講義内容の幅を広げることができた。

自身の専門分野の最新事例の写真や解説も、協力企業の許可を得て、土木学会と吉田さんのクレジットの記載と、プラットフォーム上での報告を条件に公開した。全国の大学や高専、工業高校、小中高の社会科教員など教育関係者に利用してもらっているようだ。

他にも「地方のインフラ人材の確保」「地域防災」など、部門を横断したプラットフォームがあり、関連学会や行政のセミナーなど、縦割りでは共有されなかった情報や学会報告などの情報を得られるようになった。今のところ、情報共有と簡単な意見交換が行われているだけだが、共同研究や実務での協働につながった例もあるそうだ。

吉田さん自身も、今まで必要だと思いつつ敷居を高く感じていた第2部門(水工学)や第4部門(土木計画学)との連携につなげたいと期待している。まずは他部門の学会に参加して、プラットフォームで意見交換したメンバーと話をしてみたい。

もちろん、委員会活動のオンラインサポートも強化された。オンライン会議のシステムや議事録用のAIツールは自由に使えるし、委員間の共有もスムーズだ。学会参加や委員会開催時の請求手続きも、必要書類をオンラインでスムーズに提出・発行等ができるようになった。

退職まで約15年、学内外の用務を抱えつつも、研究と実践、教育活動に強い意欲を感じている。

ペルソナβ：原田拓也（ライト会員）

【凡例】
現在の課題や悩み
良いこと
気持ち、できるようになったこと

キャッチフレーズ(案)：建設業の課題をITで解決。業界とともに進化する新しいキャリア！

【設定】

非会員
市民



サンプル

名前：

はらだ たくや
原田 拓也

年齢： 38歳

性別： 男性

出身地： 山口県

現住所： 東京都

家族構成

妻（会社の同僚。IT技術者）
子供2人（小1女子／年中男子）

趣味／ 感心事

- ・地元(田舎)が好き
- ・キャンプ(アウトドア)
- ・マラソン
- ・DIY

職業

システムエンジニア
（電機メーカー系のソフト会社）
ベンダーに所属するサラリーマン
東京の大学の情報工学系学科大学院修了

土木との 関わり

クライアント、エンドユーザーは建設系

土木学会 との関わり

全くない

■現在の状況

拓也さんは、40歳を目前にしたサラリーマン、ITシステムを販売する企業でSEとして勤めている。部品メーカーをクライアントとした、仕様書と図面の精査、作業ファイル共有のためのシステム構築に従事している。

今の仕事に不満はないが、多忙であるため、時間に余裕がないと感じている。コロナを経験したので、通勤する労働スタイルに疑問を感じるようになった。

建設会社がクライアントの仕事（建設DX、業務効率化、iConstruction?）にやりがいを見出している。業務の中、建設業界でも似たようなニーズがあることを知り、裾野の広さに可能性を感じている。

自分でシステム内容から提案するようなサービスエンジニアやマネジメントにも興味があり、建設業界を対象にした個人事業を起業しようかと考えたが、誰に相談していいかわからず、一端保留している。

両親の介護が必要になりそうであり、子供の教育環境も考えて地元に戻りたくても妻と相談している。

■5年後...（悩み、課題が解決した時の状況）

拓也さんは、地元に戻り、IT関係のフリーランスとして起業した。妻も在宅勤務が認められ、一緒に移住し、月に1度程度上京して出社している。勤めていた会社から請け負う仕事の傍ら、建設業界向けのサービスを展開し、地元の建設業にも貢献できないかと模索していた。ある日、技術展示会で建設コンサルタントの人と知り合い、立ち話でアイデアについて意見を求めたところ、現場や建設会社の意見を聞いたほうがいいのでは、ということで、土木学会の支部を紹介された。SNSやHPで検索し、県内のイベントに参加してみることにした。全国で活動できること、社会貢献できる仕組みがあること、業務関係を超えて、会員が交流していることを知った。

支部で多様な人と関わる機会をもちたいと考え、まずは支部活動やイベントアーカイブの視聴、学会の聴講ができるライト会員として入会した。その後、支部の交流会で拓也さんのアイデアに興味をもつ建設会社と出会い、建設業向けサービスの実現に向け踏み出した。全国大会に参加したところ、他地域の同業者を見つけ、サービスの改善や建設業界との付き合い方について意見交換ができた。

学会内にコミュニケーションをとる場が少ないことを知り、自分の得意なIT技術を使って、オンラインで支部会員の交流の場を提供するなどしたことで、支部の仲間も増えた。図面確認の技術に興味を持った建設会社から、画像解析を用いた中山間地のインフラメンテナンスについてアイデアを聞いて、まずは詳しい話を聞いてみようと考えている。もう少しまわれば、今後新規事業にもつながりそうだ。支部のイベントにも子連れで参加するなど、自分が社会・地域へ貢献している様子を見ることができて満足している。論文アーカイブやE-learningにアクセスできるフル会員への参加を検討している。

ペルソナ：高橋陽菜（学生・ライト会員）

【凡例】
現在の課題や悩み
良いこと
気持ち、できるようになったこと

キャッチフレーズ(案)：土木の世界をもっと身近に。つながりと学びで広がるキャリアの可能性！

【設定】 学生会員

名前：

たかはし ひな
高橋 陽菜



サンプル

年齢： 22歳

性別： 女性

出身地： 熊本県

現住所： 千葉県

家族構成

父(公務員、兼業農家)
母(パート)、妹(高校3年)

趣味／ 感心事

・マンガ ・アニメ
・映画鑑賞

職業

大学4年生
論文発表後の交流会で、他大学から参加していた人が同じ趣味と判り、学会の学生コミュニティに誘われ、参加した。

土木との 関わり

土木系学科

土木学会 との関わり

学生会員
土木学会の活動はよく知らない

■現在の状況

高橋さんは大学で土木を学んでいる。高校の成績をもとに先生の勧めで進学したため、業界には詳しくなかった。

就職を考える中で、コミュニケーションが苦手なことや、男性の多い土木業界でやっていけるか不安を感じている。論文発表後の交流会で友人ができ、勧められて土木学会に入会し、学生コミュニティに参加。しかし、企業や先輩との交流は少なく、就職活動に関する情報も不足している。

親が公務員で地元での就職を勧められ、自身も熊本地震を機に地域貢献を考えるようになったが、公務員が本当に合っているのか迷っている。民間企業を考えるにも人脈がなく、就職活動の進め方や相談相手に悩んでいる。

■5年後...（悩み、課題が解決した時の状況）

高橋さんは、大学卒業後、地元に戻り、市役所の技術系職員として就職し、「インフラ維持管理」を担当。土木学会には学生会員として所属していたが、卒業と同時に自動退会し、正会員には加入しなかった。

未経験の分野で多くの課題に直面し、悩む日々を送っていた。そんな中、生成AIで情報を検索するうちに、土木学会のセミナー情報を発見。以前から気になっていたが、東京開催のため参加を諦めていた。しかし、有料アーカイブが「土木学会SNS(サブスク)」で視聴可能となり、会員登録。動画と資料を活用し、知識を得たことにより、**問題解決の糸口を見つける手応えを感じた。**

さらに、セミナー講師について調べると、学生時代の学会仲間の指導教官であることが判明。仲間を通じてアポイントを取り、直接相談する機会を得たことで、**より実践的な知識を得られた。**

これを機にサブスク会員から、土木学会の勉強会にも参加できるライト会員にアップグレード。結果、**業務の課題解決に成功し、職場での評価が向上しただけでなく、土木学会の認知度向上にもつながった。**

また、会員専用サイト(土木学会SNS)が充実しており、時間を問わず必要な情報にアクセスできるようになった。さらに「グループ機能(学会の調査研究部門の委員会等)」を活用し、大学教授や研究者とつながり、実務での協力体制(マッチング)が実現。専門性の高い情報交換や相談も気軽にできるようになり、**再入会したことを非常によかったと感じている。**

現在は、土木学会の活動に積極的に参加したいと考えているが、職場の理解が十分でないため、参加の優先度は高くない。それでも、会員サイトで得た情報を活用して、**市の課題解決や自身のスキル向上に努めている。その結果が上司にも評価され、業務として後輩と共に学会のセミナーに参加する機会が与えられるようになった。**さらに、学会を通じて出会った大学教授から、リクルートに悩む学生が多いことを聞き、自身の経験を振り返る。学生会員時代の友人や教授とともにリクルート関連のSNSグループを立ち上げ、**土木業界の多様な分野を知る機会を提供しようと考えている。**

ペルソナI:大木洋子 (学会事務局職員)

【凡例】
現在の課題や悩み
良いこと
気持ち、できるようになったこと

キャッチフレーズ(案): 支える立場だからこそ見える未来。運営の基盤を整えながら、共に成長する！

【設定】 学会職員

名前:

おおき ようこ
大木 洋子



年齢: 45歳

性別: 女性

出身地: 東京都立川市

現住所: 東京都三鷹市

家族構成

夫(会社員)、娘(15歳)、息子(12歳)

趣味／ 感心事

- ・ランニング
- ・読書
- ・街歩き(インフラ探訪)

職業

団体職員
経営学部出身。30歳の時、転職サイトを通じて土木学会に転職した。職員として、研究調査部門、教育企画部門を担当してきた。

土木との 関わり

土木学会職員

土木学会 との関わり

職員

■現在の状況

大木さんは、土木学会の職員として研究調査部門や教育企画部門を担当してきた。経営学部出身で、30歳のときに転職サイトを通じて現職に就いた。

日々の業務では、積極的に活動する委員の指示を淡々とこなしているが、それだけで良いのか疑問を感じている。管理職になったものの、委員や会員から意見を求められることは少なく、主体的な役割を果たせていないように思う。

また、会員から情報システムに関する要望が寄せられることが多いが、対応できる範囲に限られ、事務局内で提案しても受け入れられにくい状況にある。

さらに、女性管理職が少なく、手本となる人がいないため、自身が今後昇進を目指すべきか迷っている。外国ルーツの会員が増える中で英語ができないことにも不安を感じ、自分の役割について悩んでいる。

一方で、家庭を大切にしながら、縁の下での力持ちとして事を続けることに価値を見出している。

■5年後... (悩み、課題が解決した時の状況)

大木さんは50歳になり、管理職を務めている。2024年度の初めての女性の会長就任をきっかけに、**学会内の雰囲気が変わったように感じる**。たとえば、問題が生じた時の対応手順や通報者の保護の方針も明確化された。また、事務局内、委員会や理事会などでも、**事務局員はのびのびと発言できている**。職員、管理職には、男性、女性、転職してきた人、外国ルーツの人、そして若い人など様々なので、**孤立感は感じない**。

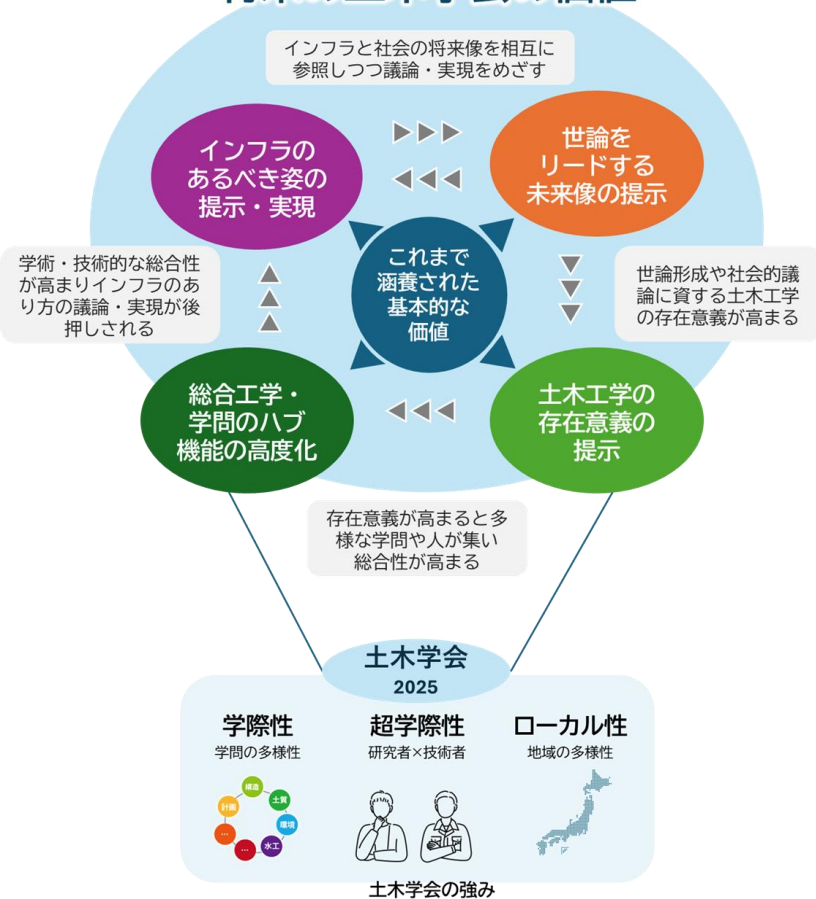
委員と職員の関係はフラットになり、話をしやすい雰囲気がある。ちょっとした相談もできるし、対話を重ねることで思いがけない提案に結びつくことも増えている。事務局職員も委員会などの活動の対等なメンバーとして見られていることに、職員も慣れてきた。会議でも遠慮することなく、個人としての意見も発言できている。最近では、異業種の会員が増え、事務局が橋渡し役となることがあったり、委員会を構成するメンバーとして意見を求められることや評価されることも多く、**事務局職員としての誇りを感じることもしばしばある**。

経費の精算や予算編成、委員会サイトなど、会員から不評だった手続きやシステムは更新されアカウントの整理も進んだことで、**現在は事務局員が経理と委員の板挟みにもならなくなった**。聞き取れない、中断するといったオンライン会議システムの利用上の問題もない。**委員や聴講者からの苦情を受けることが少なくなったことは本当に嬉しい**。

英語は変わらず得意ではないけれど、**日本語が得意ではない人とのコミュニケーションも怖くなくなった**。外国出身の委員もたくさんいて、中には親しい人もできた。いつかはこの人が会長になるかも、と、楽しみにしている。
洋子さんは、将来は、土木学会での経験を活かして、**他の学会の運営にも携わってみたいと思うようになった**。

キャッチフレーズ

将来の土木学会の価値



■検討フロー [親和図法 ※miro(ツール)活用]

○土木学会の価値・役割とは？(定款をもとに考える)

世論をリードする
未来像の提示

インフラの
あるべき姿の提示

土木学会の
存在意義の提示

土木工学
学問のハブ

○「あるべき姿」に向かう土木学会について

- ・土木学会の未来に必要な「コト」、「ヒト」、「モノ」...
- ・現状:どんな人たちがいる?どんな課題がある?
- ・将来:どんな人に関わってもらいたい?どんなことがあれば良い?

○視点

育てる

守る

支える

つなげる

○対象となる「あなた」について

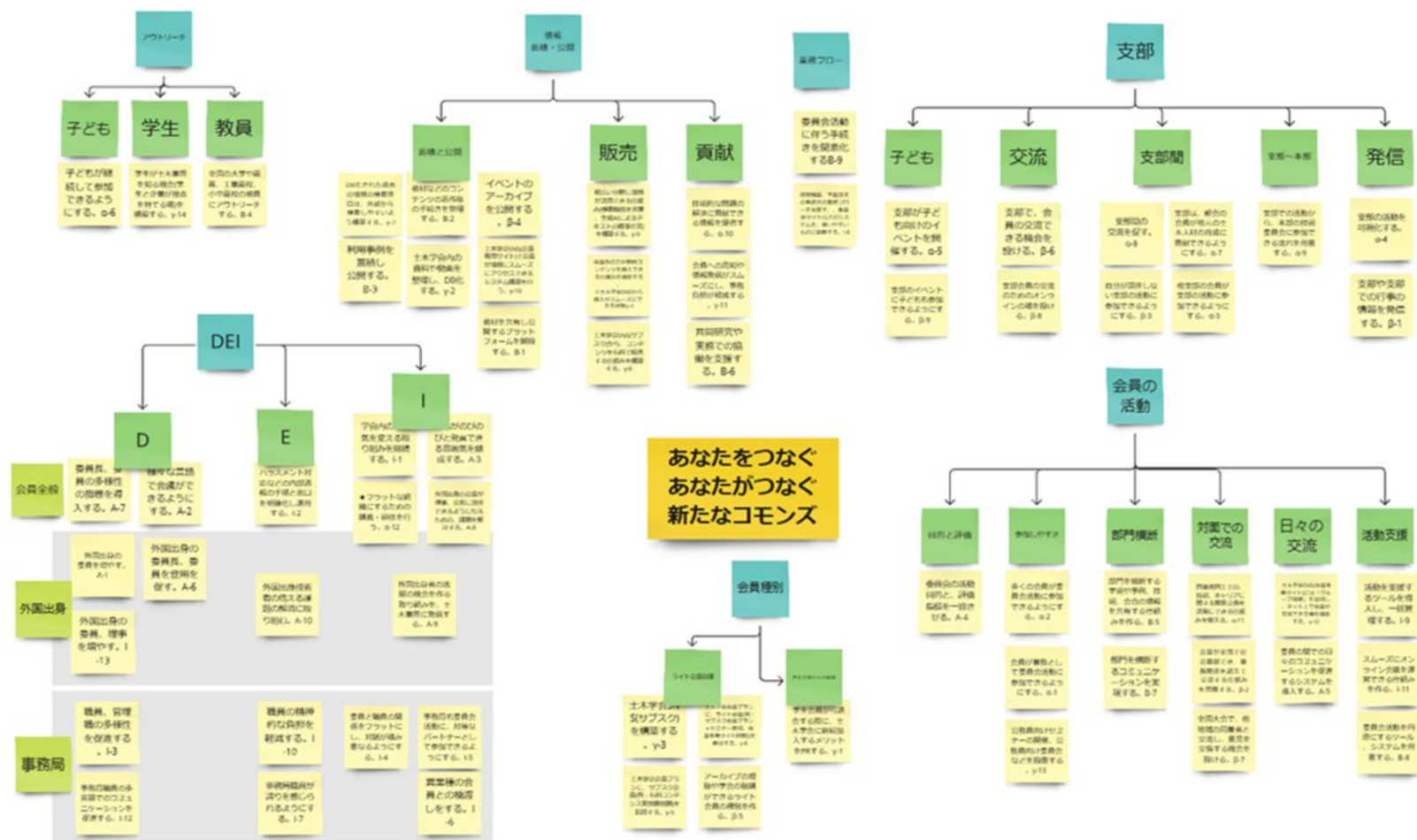
- ・どんな人を「育てる」のか / 「育てる」「育つ」
- ・どんな人を「守る」のか / 「守る」「守られる」
- ・どんな人を「支える」のか / 「支える」「支えられる」
- ・どんな人を「つなげる」のか / 「つなげる」「つながる」

WG:キャッチフレーズ

あなたをつなぐ あなたがつなぐ 新たなコモンズ



67 施策案 7 分類



今後対応すべき事項（JSCE2025より抜粋）

【組織間交流の推進】

- 部門間での情報共有・意見交換を支援し部門横断的な取り組みを支援する

【会員の交流の推進】

- オンライン上での会員交流を促進し、日々のコミュニケーションの円滑化と交流を図る
- オフライン（全国大会、研究発表会等）での会員交流をより促進する
- 会員マッチングによる協働を支援する
- 会員が全国で社会貢献できる環境を構築する（関係人口ならぬ関係会員）

【会員活動の促進】

- 会員が業務として委員会活動等に参加できるよう、所属元に働きかける
- 委員会活動への若手・他業種の参加を促す

【情報の蓄積・公開】

- 会員が土木学会の情報（知見・成果）を活用しやすくする
 - 学会が保有する資料・動画をデータベース化する
 - イベントアーカイブを整備し、有料配信の仕組みを構築する
 - 教材として活用できる資料や情報を共有・公開する
- 周知を強化し、情報の存在やアクセス方法を学会内外に広く周知する

今後対応すべき事項（JSCE2025より抜粋）

【支部活動の活性化】

- 支部活動を支援・可視化する
- 支部間連携・本部-支部間の連携を強化する

【アウトリーチの強化】

- 子供がインフラ学習に継続的に関わることを促す
- 高専・工業高校、小中高の社会科教育など多様な教育機関へのアプローチを図る
- 学生と企業・業界との接点を創出する
- 公務員向け支援を拡充する

【会員種別の多様化】

- 関心をもつ人が土木学会の資産を活用できる新たな会員種別を導入する

【DEI推進】

- 誰もが伸び伸びと発言できる雰囲気醸成し、組織のフラット化を図る
- 学会運営・学会活動への多様な人材の参画を促進する
- ハラスメント対応を明確化する

【組織体制・文化の見直しと改善】

- 委員会構成を見直し、既往の委員会と部門の再整理を検討する
- 事務局職員が委員会活動等に対等なパートナーとして参加できる環境を醸成する
- 各種申請手続きを明確化し、事務処理を効率化・簡素化する

あなたをつなぐ
あなたがつなぐ
新たなコモンズ

2030 年の土木学会